～欣浄寺法語メール～２０１７年４月～

「大丈夫？大丈夫！」

今春から始まったＮＨＫ朝ドラ「ひよっこ」、舞台は茨城県北西部の奥茨城村（架空の地名だそうです）、時代は５３年前の東京オリンピック前夜、主人公は農家の長女で高校生の谷田部みね子。ドラマの中で東京へ出稼ぎに行っている父親の失踪が描かれます。理由も告げず行方をくらました父を探しに東京に行った母も、手がかりさえつかめぬまま空しく戻ってきます。不安いっぱいの主人公みね子を心配した友達に返した言葉が印象に残りました。・・・「大丈夫じゃないけど、大丈夫にするしかない」・・・

茨城県はかって常陸国（ひたちのくに）と呼ばれ、親鸞聖人が流罪地越後から移り住ま

われた地です。居住された茨城県笠間市の稲田草庵（いなだのそうあん）で親鸞聖人５２才のときに執筆されたのが、「正信偈」がおさめられている「教行信証」というお書物です。後にその時を浄土真宗が開かれた立教開宗の年としました。常陸国今の茨城県は、親鸞聖人が浄土真宗を開かれた大切な場所なのです。

　正信偈に「不断煩悩得涅槃」とあります。「不断煩悩」・・・いつも「大丈夫だろうか」と思う不安や心配を無理に押しとどめるのではなく、「得涅槃」・・・「大丈夫にするしかない」と不安をもったままの自分を受け入れて生きていく人生が開かれた、と親鸞聖人は力強くお述べくださっています。